



水泳

日々練習重ねる実力者集まる

宮城県から6人が出場する。種目は個人が自由形、平泳ぎ、バタフライ、背泳ぎ、団体がメドレー



後列左から千葉英雄さん(63)、永井さん、遠藤男太郎さん(76)。前列左から根津台恭子さん(76)、飯沼富美さん(73)、遠藤さん

リレーだ。選手の住まいは石巻市や白石市と離れていて「このメンバーとは初めて顔に話す。」

それぞれ週4、5日ほど練習に励み、学生時代から泳いでいる選手もいれば、健康のために40代、50代で始めた選手もいる。

遠藤由利子さん(61)は「健康のため水中ウォーキングをしにプールに通い始めたのが40代。隣のレーンで泳ぐ人を見ていたら、自分も泳いでみたいと思うようになった」と振り返る。

日本マスターズ水泳協会に登録し、各地での大会に参加するなど精力的



力強く水をかいて泳ぐ

に活動するメンバーばかりだ。

永井寛さん(62)は「当日は個人種目だけでなく、メドレーリレーもある。全員が持てる力を出し切り、願わくば全国制覇できるように、大会まで練習を重ねたい」と気合十分だ。

タビユ

「ねんりんピック」の愛称で親しまれている「全国健康福祉祭」は60歳以上を対象にした健康と福祉の祭典。スポーツや文化などのイベントが繰り広げられ、今年は例年より早い9月9～12日に秋田県で開催された。宮城県からは25種目に186人の選手が出場。本番を控えた8月、選手の皆さんに大会への意気込みや普段の活動状況を聞いた。次回「冬号」では大会を終えた参加者にインタビューする。



ソフトボール

粘り強く挑み 交流も楽しむ

栗原市民中心の約20人が所属する「鷲沢ヤンガーズ」は、過去5度ねんりんピックに出場経験がある。長打を得意とする選手が多く、粘り強いプレーが特長だ。週2回の練習では基礎を重視し、キャッチボールやトスバッティングに力を入れている。

メンバーの最年長は、1989年の結成当初からチームを支えてきた岸湊さん(95)。宮城県シニアソフトボール連盟が主催する大会「岸湊杯」が



力強い投球をするピッチャーの佐藤宏樹さん(73)

開かれるなど、チーム内外で慕われている。岸さんが大切にしている「仲間づくり・健康づくり」



弓道

肩の力抜いて 試合に臨む

指導者の資格を持つベテラン5人が宮城県チームとして出場する。高校時代から休むことなく弓道が続けてきた選手をはじめ、全員が20～30年以上腕を磨いてきた強者ぞろいだ。

監督兼選手の浅野綾子さん(70)は「国体への出場経験がある人もいて、実力は十分。周りからは『最強チーム』といわれている」と話す。

最強チームと呼ばれるだけに「当日の失敗が怖い」と一同は苦笑いする。一番手の大前を務める飯野政井さん(65)は「最強チームのはずなのに、と言われないように全力で挑みたい」と気合十分



りりしく弓を引く

だ。

弓道は男女混合チームがほとんどで、女性のみチームは珍しい。集まって練習するだけでなく、持ち寄った菓子を食べながら会話をするのも楽しみの一つ。浅野さんは「和気あいあいとしたチームなので、あまり気負いすぎず、肩の力を抜くのが好成绩につながる」と笑顔を見せた。



左から飯野さん、浅野さん、伊藤睦さん(62)、高橋純子さん(60)、星登喜枝さん(61)